



令和2年10月18日(日)開催 国分寺市総合防災訓練 特集

今年度は、コロナ禍で例年の市民参集訓練が行えず、自宅で参加するオンライン訓練など、新たな取り組みで実施されました。

オンライン訓練 ～国分寺ぶんぶんチャンネル視聴～

各家庭で SNS を利用して、市 HP 特設サイトから様々な防災知識を検索しながら学ぶという、初めての取り組みです。すぐろくの利用や防災クイズなど、家族で共に参加できる工夫を凝らした内容となり、2,000件以上の閲覧がありました。

国分寺ぶんぶんチャンネルでは、『防災特集・新型コロナウイルス感染症対策で変わる避難』と題し、コロナ禍における避難生活をテーマに、感染防止のために必要なグッズや対策について学びました。

(ぶんぶんチャンネルは、市 HP をご参照ください。)

- これまでの避難所の在り方に、感染症対策を付け加えた、新たな形の避難所運営や必要物品などが検討されています。

- ・ 受付時の問診や検温、毎日の健康管理
- ・ 感染の疑いのある方と一般避難者各々の滞在スペースの確保と動線の区分
- ・ 2メートル四方の室内用テントの配備 など。

- 避難所に避難する際には、感染予防として、裸足を避け、上履きなどをご用意ください。

他にも、消毒液・マスク・体温計・ゴミ袋など、避難用リュックサックの中に準備しておきましょう。



発熱者等受付



室内用テント

2人で組み立てれば
3分で設置可能

●一方で、各施設での避難者受け入れ数は、大幅に縮減される見込みです。自宅が安全なら、感染症対策としても、在宅避難が安全です。できるだけ在宅避難が可能になるよう、事前の準備を一層拡充していく事が必要です。今から準備できる対策として、備蓄・避難所以外の避難場所・ライフラインの確保、などの案内がありました。

- 『コロナ禍 避難の心得』
 - ①避難所運営は避難者同士で！
 - ②事前にイメージ、対策・備蓄を！
 - ③自宅が無事なら在宅避難を！

備えあれば憂い無し、日頃からの準備が大切です。

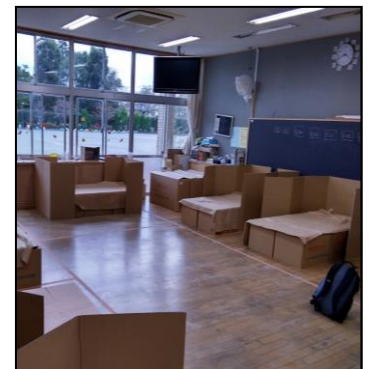
●四小では、市職員によるコロナ対策を施した避難所の設営訓練も行われました。

初動要員と、多摩立川保健所・国分寺市医師会にもご参加いただき、避難者受付手順を実際に確認するなど、コロナ禍における避難所運営方法について共有しました。

今後は検証結果を踏まえた対策の改善を図り、地区防災センター運営マニュアルに反映されます。



市内で約 1,300 張購入予定



ダンボールベッドの設営

FM 放送

【東日本大震災での被災体験から共助について考える】

『被災体験者の語り』と題し、仙台市防災減災アドバイザー吉田亮一氏をお迎えし、吉井博明東京経済大学名誉教授が、被災時の実体験や共助の重要性について、インタビューを行いました。

内容詳細は、今後、市 HP に掲載予定です。



インタビューの放送(9小屋上)

【コロナ禍の避難のポイント】

新型コロナウイルス感染症流行下における避難所について、市からのお知らせがありました。

(内容詳細は推進委員会 HP に掲載、ご参照ください。)

- コロナ禍での避難のポイントは3点。
 - ①ソーシャルディスタンス確保のため、一人あたり4㎡の確保が必要。受入れ可能人数は大幅減、市地区防災センター17箇所総計で約7500人に。
 - ②感染症対策の必要性から、平時以上に、手指消毒・マスク着用・咳エチケット等を心がける。
 - ③感染拡大防止の重要性から、在宅避難の検討を。
- 在宅避難のためには、自宅の安全対策や備蓄も大切です。

市では、木造住宅耐震対策・防災用品の斡旋など在宅避難に役立つ事業や、防災について基本的な知識を学べる『市民防災まちづくり学校』の開催などを行っています。HPで確認して、在宅避難対策に役立ててください。
- 自宅が被災し在宅避難が難しい場合でも、すぐ避難所に行こうとせず、先ず親戚や知人のところに避難できないかを考えてください。日頃から互いの避難について話し合っておくと安心です。

在宅避難者支援アプリ実証実験

防災まちづくり推進地区15地区の皆様にご協力いただき、日立製作所中央研究所が開発中のアプリ実証実験が行われました。

アプリを読み込んだ後は、基本情報や必要物資を順調に入力でき、受付完了メールも無事届きました。が、その後の物資配布連絡メールが届かないケースも発生し、不安も感じながらの体験となりました。アプリは便利ですが、まだ課題の残る結果となったようです。

市では、自宅に倒壊の恐れがなければ、在宅避難を勧めています。本アプリは、必要物資を入力するだけで要望が届くので、在宅避難者にはとても便利なツールとなります。有益な開発が進められていると感じました。いざという時には、近隣の方々と声をかけ合い、助け合っていきたいですね。



けやき台団地地区の皆さん、アプリ入力中

防災講演会『避難所あれこれ～避難所に起こる問題と対策～』

令和2年10月14日（水）本多公民館にて、防災まちづくり27会と共催。講師に日本防災士会東京都支部・松井正雄支部長をお迎えし、ここ数年の大震災での避難所運営の状況や課題について、ご経験を踏まえてお話しいただきました。約65名の参加がありました。

- ① 近年、災害は多様化し、また複合化して発生するため脅威が増大傾向にあること。
- ② 災害関連死の発生が高いこと。
- ③ 避難所では、居住スペース・トイレ・ペットの問題がまだ大きな課題であり、対策が必要なこと。
- ④ コロナウイルス感染症予防として、さらに必要な対策。
- ⑤ 実動訓練を行い、不都合な点が見えたら改善を施すこと。

など、避難や避難所の留意点について様々な事例紹介がありました。

『避難は難を逃れること。＝避難所ではない。難を逃れる様々な策を考えよう。また事前に安全な所に避難しておくことは大切。災害が空振りでも命を守れるならいいから。』とのアドバイスがありました。

(内容詳細は推進委員会 HP に掲載、ご参照ください。)

市民の防災体験 『仲間の命を救った AED 使用例～』

ある日、戸倉野球場でソフトボールの試合中のこと。チームメイト A 氏がバッターボックスで急に倒れ、意識がない状態に。

事務室に AED が設置されていることに気づき、急いで取りに行き、別のメンバーは救急車を呼んだ。AED が届き、直ちに説明書の指示に従い、電源を貼り付け、電気ショックと胸骨圧迫を行った。10 分程度であったが、胸骨圧迫を実際に続けて行うことは大変で、5~6 名で交代して続けた。AED を実際の現場で使用するのは初めてだったが、地域の応急救護講習会や防災の集いで何度も使用訓練していたので、指示に従い迷いなく胸骨圧迫を実行した。時間が長く感じられた。

救急車のサイレンを聞き、到着にホッとした。救護作業を救急隊員に引継ぎ、A 氏が倒れた状況や AED 処置状況など、聞き取りに協力した。

数分後に多摩総合医療センターへ無事搬送され、心筋梗塞と診断、直ちに緊急手術が行われた。幸い後遺症もなく元気に回復され、翌年にはチームに復帰された。

医師からは『倒れた時点で心肺停止状態に陥っており、生命の危機に瀕していた。が、現場での速やかな AED 使用が極めて適切だった。』とのお話があり、後日、東京消防庁から感謝状を受けることとなった。

いざという時に迅速に対応するためには、日頃から訓練を重ね、準備しておくことがやはり大切ですね。

〈推進委員会 HP〉 <https://kokubunji-shimin-bousai.jimdofree.com>

〈 編 集 〉 防災だより部会

〈 お問い合わせ 〉 国分寺市防災安全課防災まちづくり係

TEL042-325-0111 (内線511)

